



4-9_本堂の東余間の七段飾りを中心に、貝やウサギのひな飾り、羽子板、干支の人形など、吊るし雛以外にも豊富に展示されています

1-3_轟住職の義祖母が一つひとつ手づくりした吊るし雛。鞠や花、動物などさまざまな種類があります。昔使っていた着物を使用したものもあり、既製品にはないあたたかみを感じられます

巻頭特集 表情ゆたかな吊るし雛が本堂を彩る

真善寺の ひな祭り

約1000体の人形を飾るひな祭りや施設を貸し出す寺子屋活動など、さまざまな取り組みを実施する亀山市小野町の真善寺。活動一つひとつに、地域の人々へ向けたい思いが込められています。

人が集まる寺院を目指し ひな祭りを開始

小野川に近く、緑に囲まれたのどかな趣の真善寺。山門をくぐり、白砂利が敷きつめられた境内を進んだ先に、鐘つき堂や本堂があります。本尊は阿弥陀如来。創建は、承安3（1173）年と伝えられており、古くから地域の人たちの憩いの場として親しまれてきました。

しかし、全国的な寺離れの傾向もあり、近年は足を運ぶ人が減少しています。「本来、お寺は誰もが楽しめる場所」として、親しまれてきた。余間に七段飾りと親王飾りが置かれ、天井を色とりどりの吊るし雛が彩ります。

あたたかみを感じる 手づくりの吊るし雛

今年の開催期間は2月27日から3月3日までを予定しています。一番の見どころは、轟住職の義祖母が手づくりした吊るし雛です。おひなさまやおだいらさまだけでなく、鞠や花、干支、昔話にちなんだ人形など多種多様で、その数1000体以上。「ひ孫の成長を見守りたい」という思いでつくり始めましたが、訪れた人々の喜ぶ顔を見ているうちに、「地域の皆さんのためにつくってほしい」という気持ちが生まれました。

一つひとつ丁寧に心を込めてつくられた人形は、手づくりならではのあたたかみ特徴。昔の着物を素材としたものも多く、古典柄の艶やかさにも目を奪われます。一見同じ人形に見えても、表情やポーズに微妙な違いがあり、二つとして同じものはありません。見れば見るほど発見があり、時間を忘れて見入ってしまう人も少なくないそうです。

「最初のうちは地域の檀家さんが足を運んでくださる程度でしたが、だんだんと口コミで広がっていき、地域の小学生も遠足で遊びに来てくれました。ありがたいことに、年々たくさんの方

が気軽に訪れられる場所です。葬儀や法事の際にだけではなく、普段から皆さんの生活に寄り添ってきたいと考えています」と、平成16年に住職に就いた轟信宏さん。風通しのよい寺を目指して、読経や黙想をする「お寺体験」、大晦日の昼に実施する「一足早い除夜の鐘」など、一般向けの取り組みに力を入れています。

平成22年ごろからスタートしたのが、寺子屋活動と呼ばれる本堂や境内の貸し出しです。開始当初は地元音楽家による演奏会や博物館職員を招いた歴史講座、落語会

に楽しんでいただけられるようになってきたんです」と轟住職。テレビ取材や訪れた人のブログ・SNSを通して全国で知られるようになり、北海道や九州からも旅行のついでに立ち寄る人が増えたそうです。毎年数百人の来場者でにぎわいます。

誰かが訪れやすい地域の交流の場 介護士としての実務経験があり、介護福祉士の資格も取得している轟住職は、スロープの設置など寺院のバリアフリー化にも取り組んでいます。轟住職のスケジューリングが調整できるときは、希望者の送迎にも対応しています。遠方の方が訪れやすいように、駐車場も整備しました。

「昨今は世の中自体が高齢化していて、特に檀家さんは高齢の方が少なくありません。地域に開かれた場所を目指しているため、高齢者や、体が不自由な人など、一人でいらつしやるのが難しい方でも、皆さんが入りやすいようにしていきたいんです」と轟住職はほほ笑みます。

これからも幅広く活動を充実させ、さまざまな人が出会って喜びを分かち合える「地域の交流の場」を目指す真善寺。今年も「真善寺のひな祭り」と吊るし雛展示に足を運び、地域への思いが込められたひな飾りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

●インフォメーション
第9回 真善寺のひな壇飾りと吊るし雛展示
所在地:亀山市小野町307
期間:2021年2月27日(土)~3月3日(水)
公開時間:9:00~16:00
※公開日などの詳細は公式ウェブサイトを確認してください
※新型コロナウイルス感染症の拡大によって中止になる場合もあります



本尊の阿弥陀如来が安置される、荘厳な本堂内



住職 轟信宏さん
ひな祭り以外にも、五月の節句や七夕など多くのイベントを行っています